



山脈の間に轟音が響き渡る。

「ファイアフェザー！」

「ふふ…いけー！ピッドモン様！悪い奴をやっつけちゃってください！」

「何よ！悪い事なんてしてないでしょう！」

「さっきツカイモンを虐めてたじゃないか！今だって人質に取ってる！」

三上ホロネが光の呼びかけに応える。

「ほら！やっぱり勘違いされてんじゃん！光がツカイモン引っ叩くから！あんなの見たら誰だって虐めてる悪い奴だって思うよ！」

「だってこいつせっかくお腹空かせてたからってサンドイッチあげたのにこっちのに辛子仕込みやがったのよ!？」

「あげたのは俺だけどね！」

勇太は光とツカイモンをおんぶしなんとかピッドモンの攻撃を躲していた。

デビドラモンとヴォーボモンは攻防の中で距離を取ってしまい後方にいた。

「とうかなんでボクも巻き込まれてるんだよ!!」

光に抱き抱えられツカイモンが悲痛な叫びをあげていた。

「あんたは人質よ！こっちが攻撃されそうになったらあんたを盾にするのよ！」

「そんな事言ってるから疑われるんだよ！完全に俺達悪役じゃん！」

「なんですって!!」

「いたたたたた!!!!!!???」

勇太の頬を後ろから光が思い切り引っ張る。

「…ミカちゃん何か思っているのと違うのか？」

「う～ん？」



へへ…ごめんなさい。それにごはんまで貰っちゃって…」

「いいわよ。この馬鹿のせいだから」

「いたたた！」

光がツカイモンの頬をぐりぐりとする。

「やめなって光そういうとこだよ。」

「ふん！」

勇太がツカイモンと光に挟まる。

「勇太あこいつ酷い奴だよ～」

ツカイモンが勇太の後ろに隠れニヤニヤしながら光を見る。

「ところで、サンドイッチ幾つか種類ありますけどホロネさんとピッドモンさんは好きなのあります。」

「ふむ。デジマスのを貰おうかな。」

「えっピッドモン様ってデジマス好きなんですが？」

「?…ああトイパタモンの時も好きだよ？」

「何よあんたらだってパートナーでしょ？」

「あまり私もこういった事は喋ってなくてな…」

「そう言ったって光もデビドラモンの好み知ってるの？」

「な!?私をなんだと思ってるのよ!果物よ!特にヘビーイチゴ!あんたたまにこっそりあげてるでしょ!」

「ええ!?いいなあ!」

「ヴォーボモン旅の時食べるとそのまま動けなくなるでしょう?」

「…そっか」

ホロネは少し考えるようにピッドモンの方を向いた。

少し雑談をして勇太とホロネ達は別れることになった。

「勇太君、光ちゃんありがとね」

「…?何かありました?」

勇太と光は顔を見合わせた。

「…じゃあまたねっ」

「またどこかで会いましょうね!」

ホロネと別れ勇太達の旅は続く。